

がん社会 を診る

中川 恵一

歌舞伎俳優、市川海老蔵さんが記者会見を開き、妻でフリーアナウンサーの小林麻央さんが乳がんと闘っていることを公表しました。

乳がんは女性のがんで最も多く、日本人女性の12人に1人がかかります。2015年に乳がんと診断された人は約9万人で、10年前から倍増しています。

乳がん細胞は、女性ホルモンの刺激で増殖します。妊娠と授乳の期間は女性ホルモンの分泌が減りますから、昨今の少子化は乳がんが急増している理由の一つとなっています。

患者数は40代後半から50代にかけてピークを迎えて、閉経後はホルモンによる刺激がなくなるため、その後は減少に転じていきます。

乳がん発症の平均年齢は約57歳とされています。こうした患者の年齢分布から考えれ

遺伝で発症、薬効きにくく

ば、市川海老蔵さんが記者会見で説明されたように30歳になってまもなく進行した状態で発見されたとされる小林さんはレアなケースといえるかもしれません。

「若年性乳がん」のなかには、遺伝的な理由で発症する「家族性腫瘍」が少なくありません。

遺伝性の乳がんではBRCA1、BRCA2という2種類の原因遺伝子が知られており、卵巣がんのリスクも高くなります。

米女優アンジェリーナ・ジョリーさんは遺伝子検査でその異常を知り、両方の乳腺組織と卵巣を予防的に切除しています。

男性が変異型のBRCA1やBRCA2を受け継ぐと、若くして前立腺がんやすい臓がんになりやすい傾向があります。

両親からもらう一対の「がん抑制遺伝子」が両方ともダメになってしまうには長い時間がかかりますが、ジョリーさんのように一方がもともと壊れている場合は、残るもう一方の遺伝子に傷がつくだけでがんが発生しやすくなります。

家族性腫瘍が若くして発症するのはこのためですが、子供や兄弟にも50%の確率でこの遺伝子は受け継がれますから要注意です。

日本でも「遺伝子カウンセリング」を受ける人が増えています。ホルモン剤など、乳がんに対する薬が効きにくいのも遺伝性の乳がんの特徴です。（東京大学病院准教授）



イラスト・中村 久美